

サイバー・キャンパス・コンソーシアム
平成23年度 第3回看護学グループ運営委員会 議事概要

I. 日 時：平成23年11月12日（土）10：00～13：00

場 所： 公益社団法人 私立大学情報教育協会事務局

II. 出席者： 宮本委員、仲井委員、石橋アドバイザー（ネット参加）

（事務局：井端、森下、平田）

III. 検討内容

前回の委員会を承けて、ICTを活用するという立場から看護学コアカリキュラム実現のための教育改善モデルについて検討した。

1. 教育改善モデル案について

前回の委員会では、モデルの「2. 授業デザイン」「2.1 授業のねらい」まで検討したため、引きつづき「2.2 授業の仕組み」以降について、あらかじめ作成された石橋アドバイザーの修正案をもとに検討した。

（1）「2.2 授業の仕組み」

ICT教育の立場から教育改善モデルを提案するという趣旨を明確にするため、冒頭に、患者指導技術に関する講義・演習・臨地実習に加えて、ネット上で生活指導事例・指導に必要なエビデンス・社会資源の活用などについて多角的な意見交換と情報の整理統合の場を提供する旨を明示することとした。

（2）「2.3 ICTを用いた授業のシナリオ」

・②について

生活指導のテーマについて、以下のとおり例示を追加した。

例：糖尿病患者の食事指導、肝切除術後の食事指導、在宅酸素療法患者の生活指導、白内障術後患者の自己点眼指導、化学療法中の患者の生活指導など

・⑤について

「事例について、役割分担した内容の統合を行い」は、具体的にどのようなことを行うのかを明らかにするため、「事例について、病態や障害された機能、機能の維持・調整、内部環境、生活改善へのセルフマネジメントや経済性、生活環境、生活の質（QOL）などをアセスメントし」に修正した。

（3）「2.4 ICTを用いた学習内容・方法」

・①として「成人期・老年期の人々（大人）の学習を支援する患者教育をテーマにする。」を追加した。

・⑤（以前の④）について

「ディスカッションの相互関係図」を「ディスカッションの情報整理マップ」に修正した。

（4）「2.5 ICTを用いて期待される効果」

ICTを用いることにより可能となる看護教育を明確にするため、①～③を以下の通り修正した。

①は、ネット上での学年や看護学の領域を超えた学生による討議で、知識・技術・態度の統合化を促進できること。

②は、ネットを通じた外部の専門領域のアドバイザーによる評価で実践的な患者指導技術の活用力を高めることができること。

③ 学習ポートフォリオによる学びの振り返りで発展的な学習に結びつけることができること。

（5）「2.6 ICTを用いた学習環境」

・①に「ネット上で学生が討議するための学習支援環境が必要になる。」を挿入した。

- ・②（以前の①）について
教員連携による統合授業のため、「クラウドによるプラットフォームの構築が必要になる」に修正した。
- ・④として、「3．授業運営上の問題及び課題」の①にあった「模擬電子カルテソフトの開発」が必要であることを追加した。
- ・以前の「②模擬患者等実際に指導できる場面を提供」は削除した。

（6）「3．授業運営上の問題及び課題」

①～③を全面的に以下のとおり書き換えた。

- ①は、最新の医療情報、適切な看護情報等の資料や事例が共同利用できる仕組みを構築するために、教員同士のコンソーシアムの形成が必要であること。
- ②は、大学ガバナンスのもとに大学院生や上級学年生等のファシリテータを制度化・活用を実施するための大学ガバナンスが必要であること。
- ③は、ネットを通じて外部の専門家（認定・専門看護師、医師、薬剤師、管理栄養士等）からアドバイスなど授業協力を得られる体制が必要であること。

2．今後のスケジュールについて

今回修正したモデルを各委員で見直しを行った後、看護学分野の教員にアンケートを実施し、寄せられた意見を踏まえて次回の委員会でモデルをさらに見直し、修正したうえで完成させることを確認した。また、その後の委員会では、教育改善モデルで提案した授業の評価について検討を加え、その次にモデルを実現するための教員の教育力（授業の構成力、デザイン力など）とはどのようなものであるのかといった点についてさらに検討し、今年度中もしくは来年度にかけてあらたにモデルを作成することとした。

来年度は授業評価を含めた教育改善モデル、教員の教育力といった骨子に例示となる図などイメージしやすい形にしたうえで冊子として刊行することについても確認した。

3．次回委員会

12月17日（土）10：00より開催し、主に、アンケートを踏まえた教育改善モデルの見直し、修正を行うことにした。